

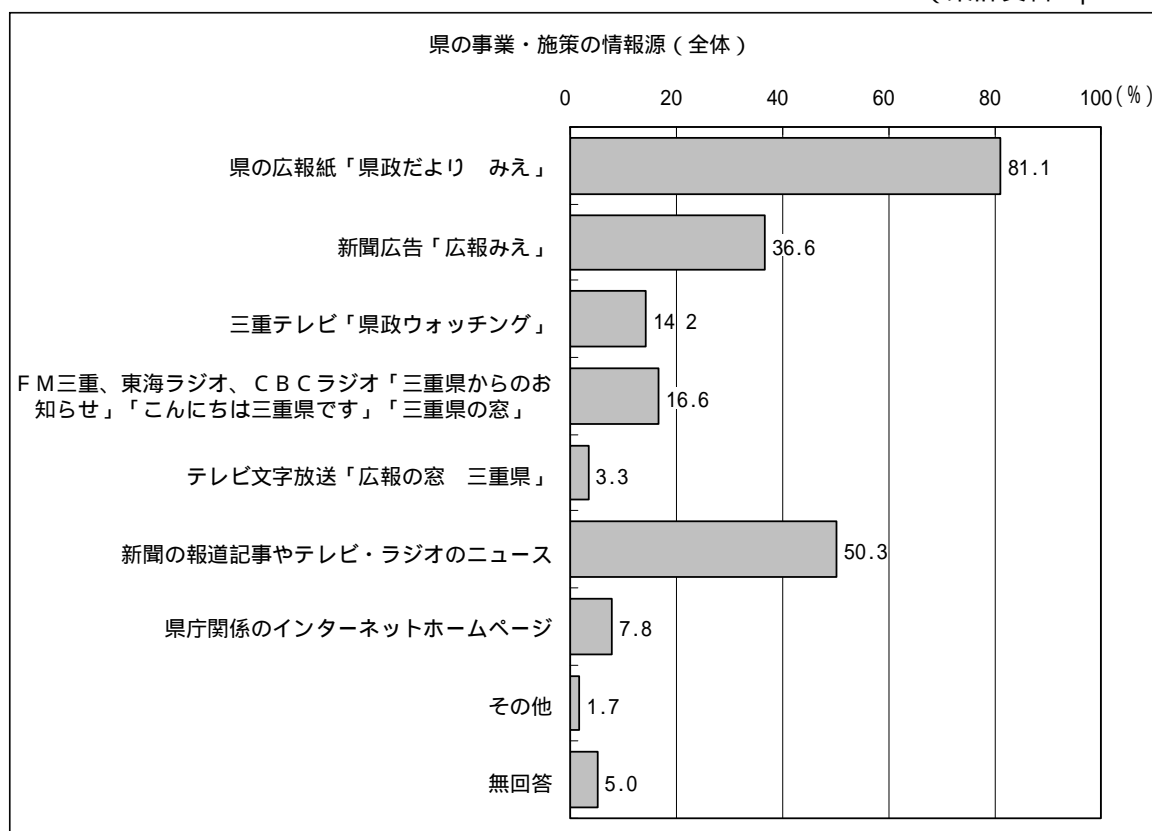
9 . 広聴広報活動についての質問

(1) 県の事業・施策の情報源

問 4 - 1 あなたは、県が行っている施策や事業について、どこから情報を得ていますか。(回答は複数選択式)

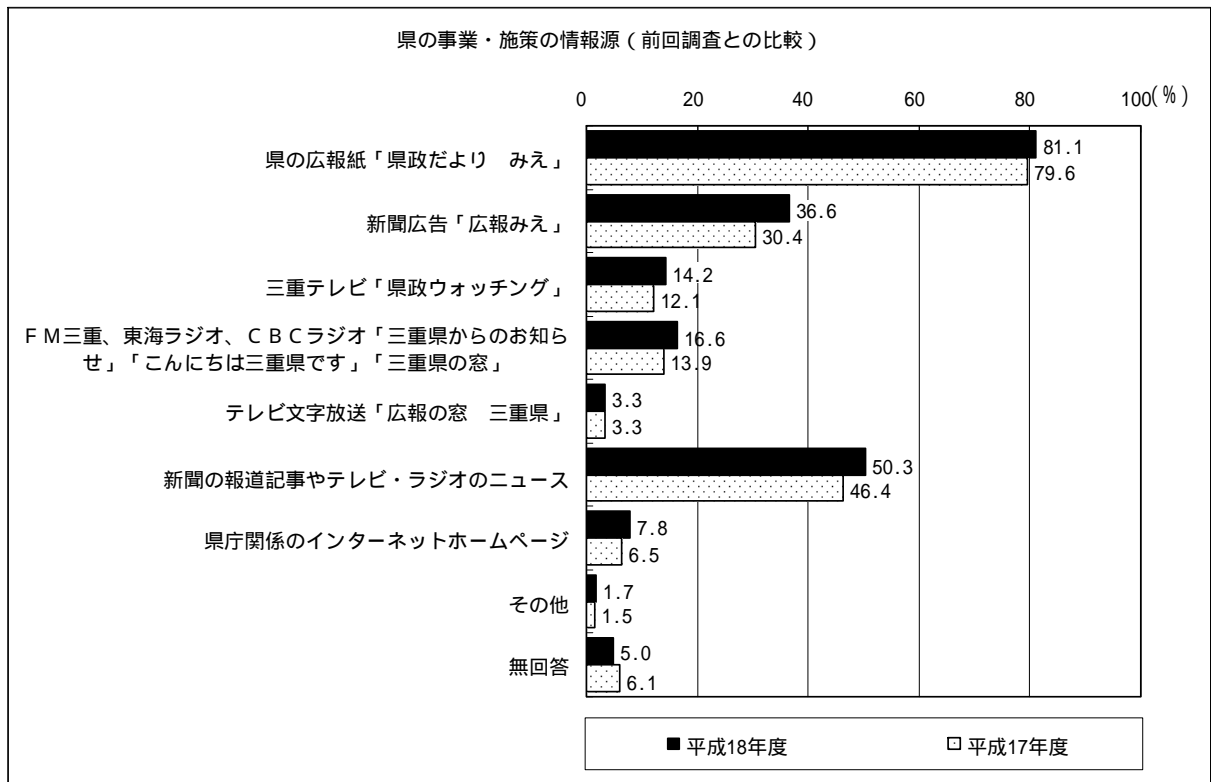
全 体

(集計資料 p.151)



平成 18 年度

県の事業・施策の情報源については、「県の広報紙『県政だより みえ』」と回答した人の割合が81.1%と最も高くなっており、次いで「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュース」(50.3%)、「新聞広告『広報みえ』」(36.6%)、「F M三重、東海ラジオ、C B Cラジオ『三重県からのお知らせ』『こんにちは三重県です』『三重県の窓』」(16.6%)、「三重テレビ『県政ウォッチング』」(14.2%)の順となっている。



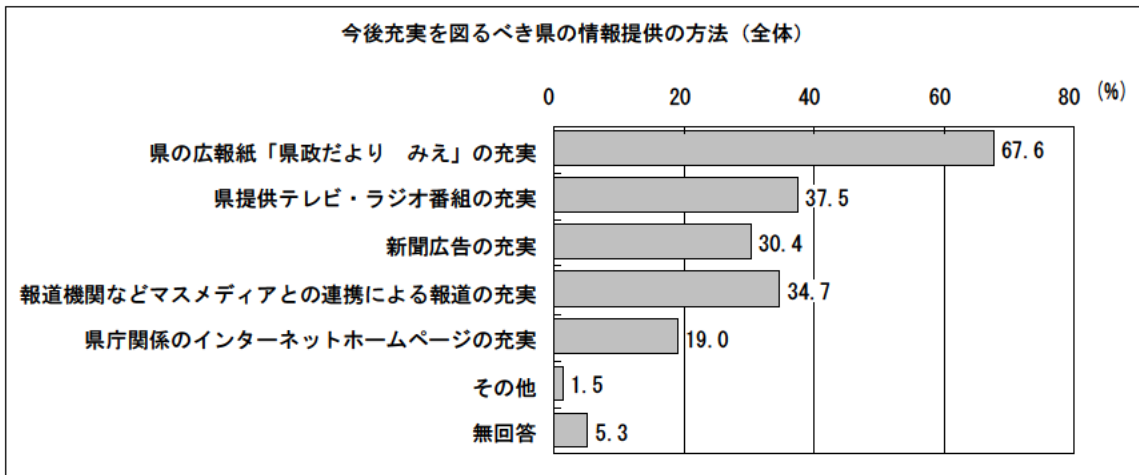
平成 17 年度と比較すると、「新聞広告『広報みえ』」「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュース」を媒体に情報を得ている人が増えている。

(2) 今後充実を図るべき県の情報提供の方法

問4-2 今後充実を図るべき県の情報提供の方法は、どのような方法が良いとお考え
 でしょうか？（回答は複数選択式）

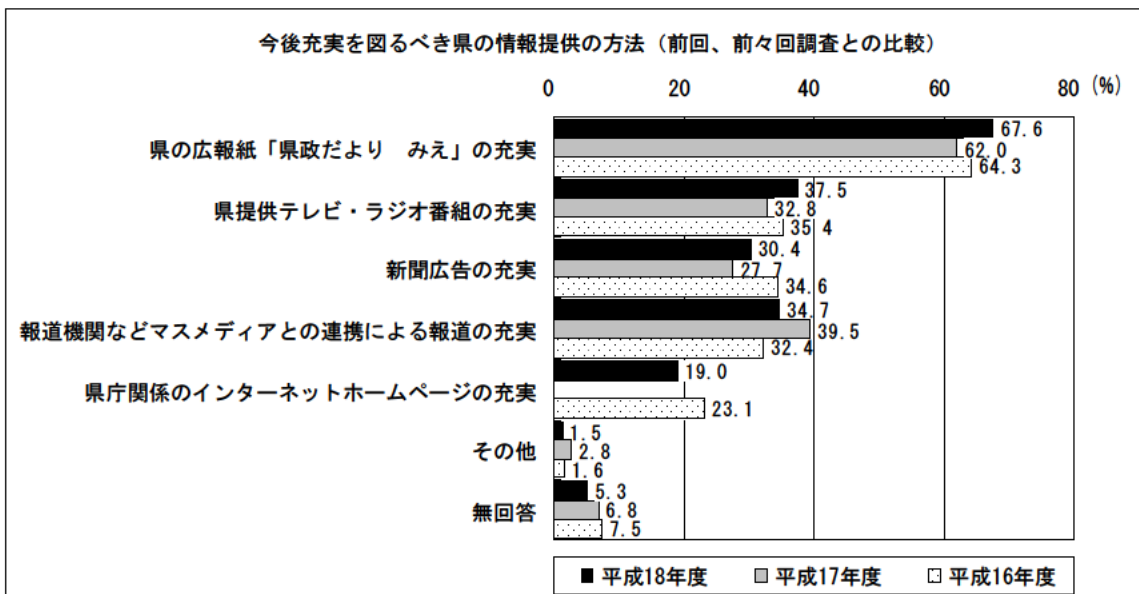
○全 体

(集計資料 p.152)



平成 18 年度

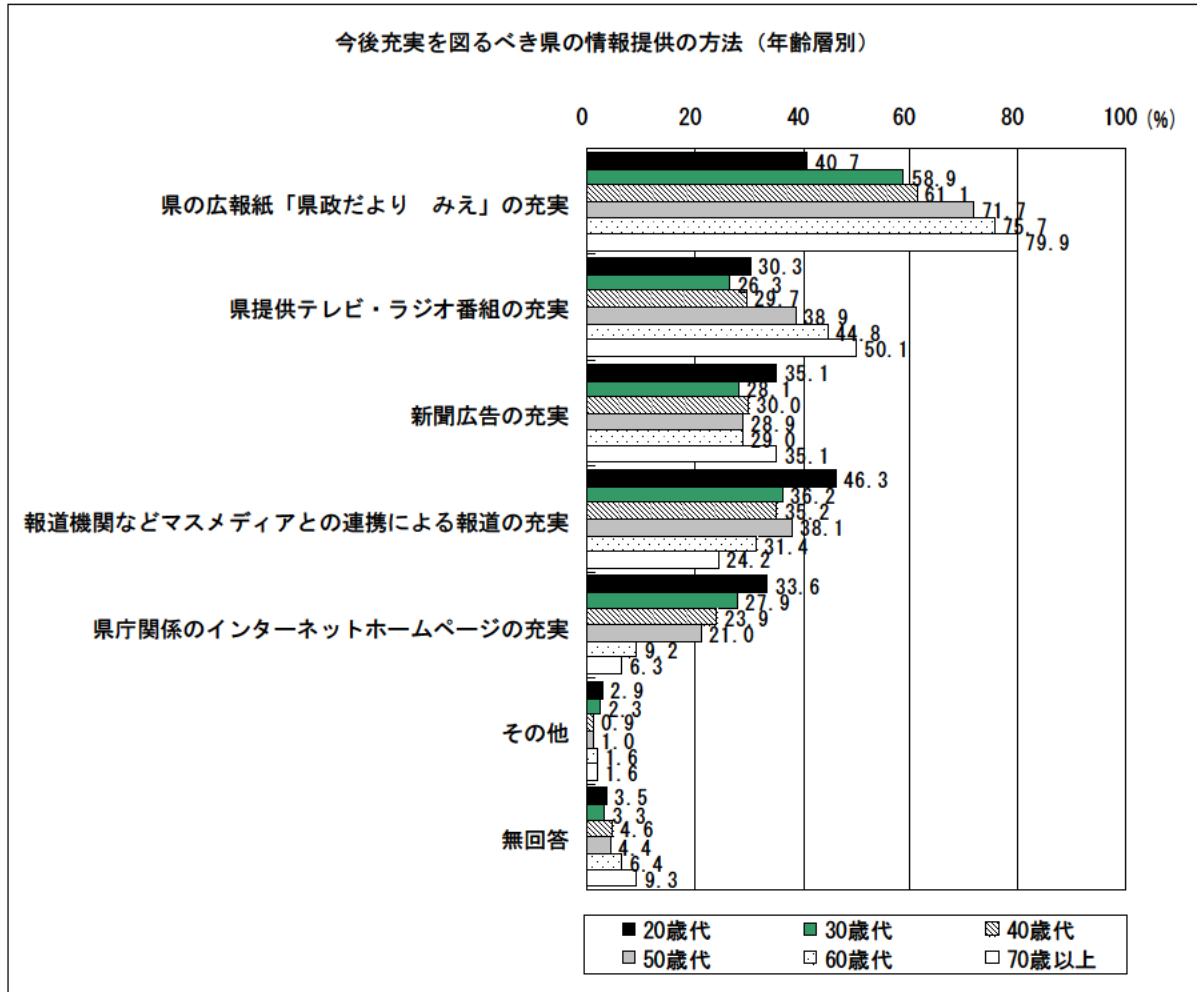
効果的な情報提供の方法については、「県の広報紙『県政だより みえ』の充実」と回答した人の割合が 67.6%と最も高く、次いで「県提供テレビ・ラジオ番組の充実」(37.5%)、「報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実」(34.7%)、「新聞広告の充実」(30.4%)の順となっている。



平成 16 年度、平成 17 年度と比較すると、「県の広報紙『県政だより みえ』の充実」「県提供テレビ・ラジオ番組の充実」「新聞広告の充実」と回答した人の割合は平成 17 年度より増加しているのに対し、「報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実」は減少している。

○年齢層別

(集計資料 p. 152)



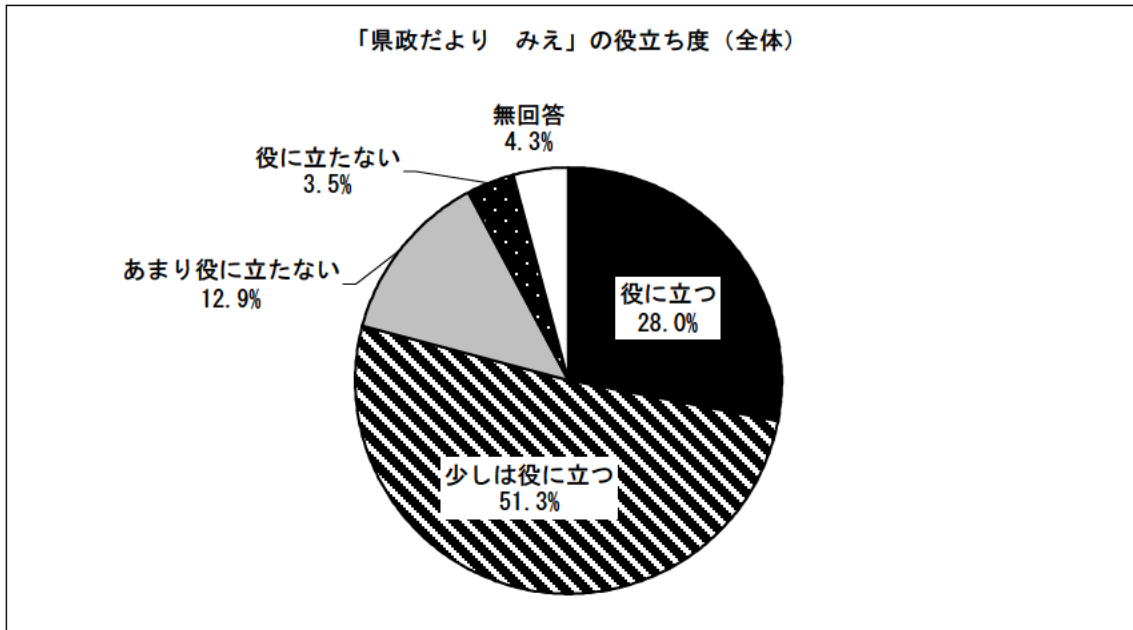
年齢層別にみると、「県の広報紙『県政だより みえ』の充実」「県提供テレビ・ラジオ番組の充実」と回答した人は、年齢とともに高くなる傾向が見られるのに対し、「報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実」「県庁関係のインターネットホームページの充実」は、若い年齢層ほど高くなっている。

(3) 「県政だより みえ」の役立ち度

問4-3 「県政だより みえ」(各戸配布の県の広報紙)は、どの程度役に立つと思いますか。(回答は単一選択式)

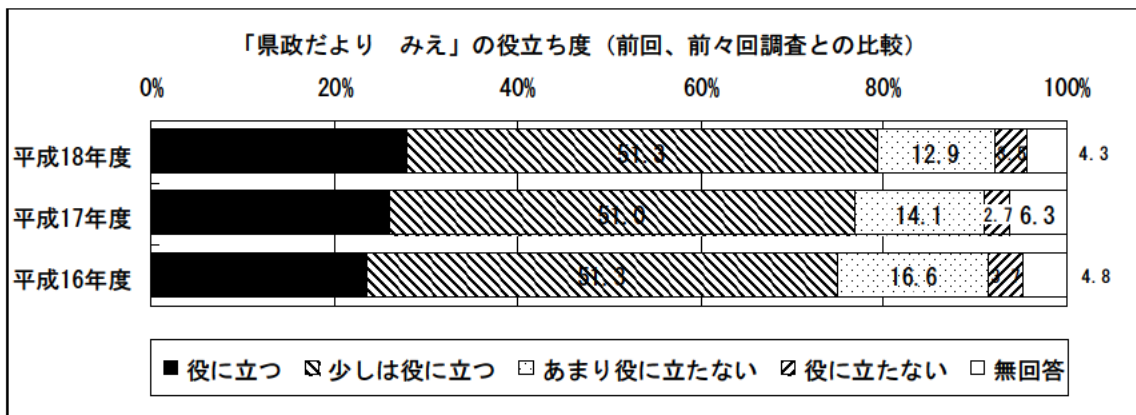
○全体

(集計資料 p.153)



平成18年度

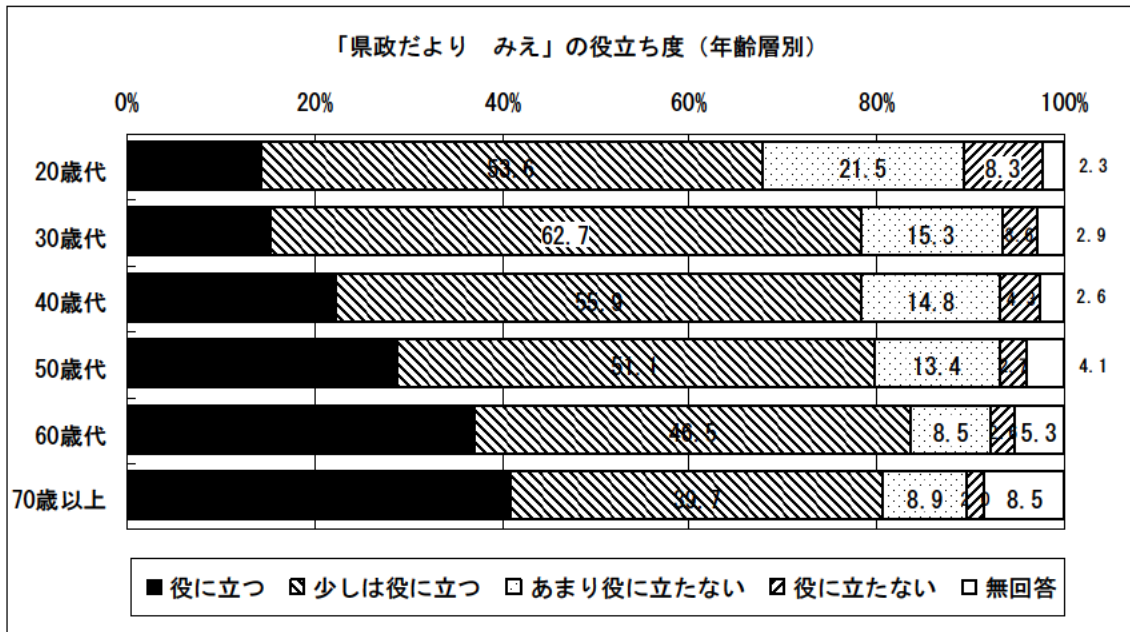
『県政だより みえ』の役立ち度については、「少しは役に立つ」と回答した人の割合が51.3%と最も高く、これに「役に立つ」(28.0%)を合わせると、“役立っている”が約8割(79.3%)を占めている。



平成16年度、平成17年度と比較すると、“役立っている”と回答した人の割合は年々増加している。

○年齢層別

(集計資料 p.153)



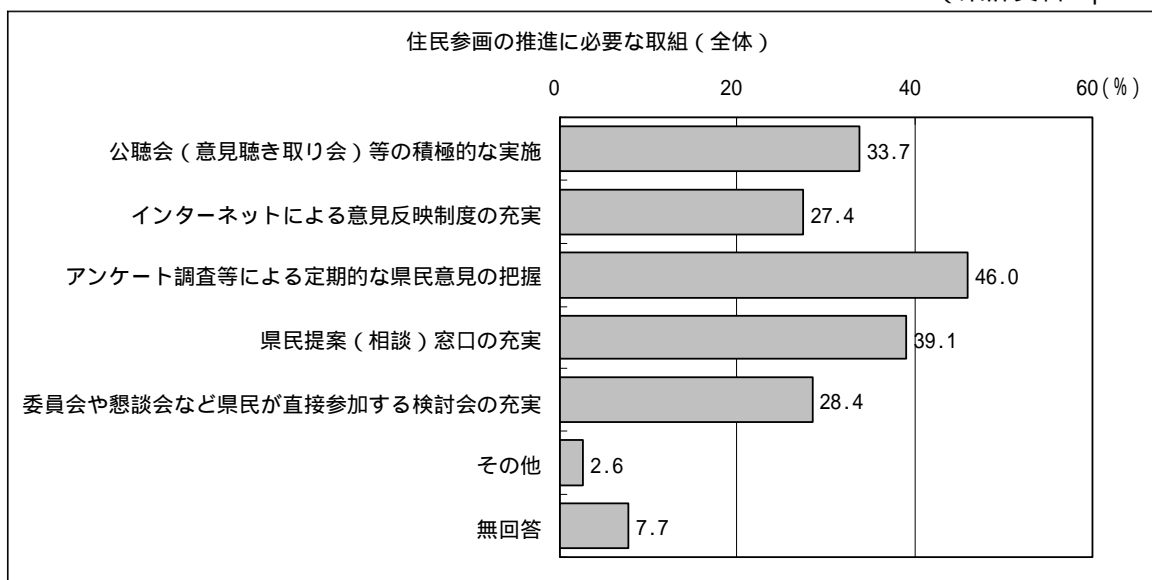
年齢層別でみると、「役に立つ」と回答した人の割合は、年齢とともに高くなり、60歳以上では約4割を占めている。また、20歳代を除いたほとんどの年齢層においても“役立っている”と感じている人が約8割を占めている。

(4) 住民参画の推進に必要な取組

問4 - 4 県民の皆さんの意見や要望をより一層県政に反映させるためには、どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。(回答は複数選択式)

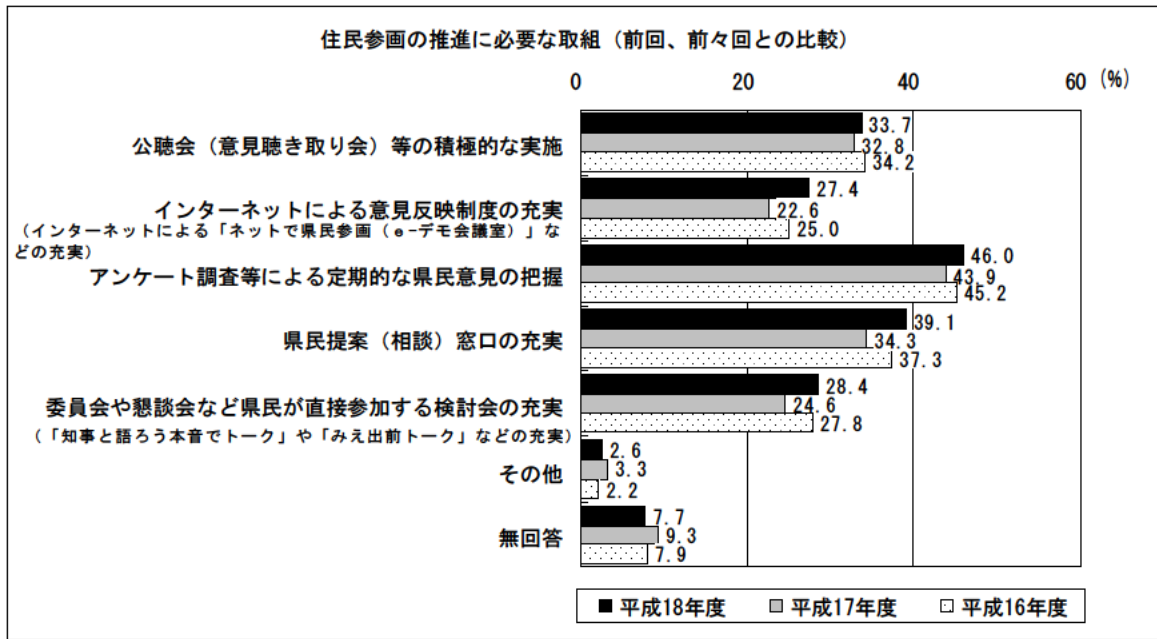
全 体

(集計資料 p.154)



平成18年度

住民参画の推進に必要な取組については、「アンケート調査等による定期的な県民意見の把握」と回答した人の割合が46.0%と最も高く、次いで「県民提案(相談)窓口の充実」(39.1%)、「公聴会(意見聴き取り会)等の積極的な実施」(33.7%)、「委員会や懇談会など県民が直接参加する検討会の充実」(28.4%)、「インターネットによる意見反映制度の充実」(27.4%)の順となっており、様々な参画方法を求めていることがうかがえる。



※（ ）は平成17年度の表記。

平成16年度、平成17年度と比較すると、「インターネットによる意見反映制度の充実」「県民提案（相談）窓口の充実」は平成17年度より4.8ポイント、「委員会や懇談会など県民が直接参加する検討会の充実」は3.8ポイント増加している。